



長野高校

1 学年

SGH 通信

有 隣

緑のファイルにまとめましょう

第 3 号

2016 年 5 月 9 日 (月)

5 月の SGH はディベート基礎①②です

まずは、講師の先生方 3 名を紹介します。

東海大学文学部 (英語コミュニケーション学科) 教授綾部功先生

中央大学文学部 (社会学) 教授矢野善郎先生

本校英語科教諭 (長野県高文連英語専門部理事長) 矢澤徳夫先生



私たちは言葉によってコミュニケーションをとりますが、それがいつも創造的・建設的なわけではなく、単なるご機嫌取りや同調に終わってしまったり、対立に終わってしまったったりすることも少なくありません。創造的な対話が成立するために必要な力を身につけるトレーニングとして有効なのが「(アカデミック) ディベート」と言われています。そこで、日本 (アカデミック) ディベート界の第一人者をお 2 人、東京からお招きし、さらに県内の高校ディベートを長年運営されている矢澤先生を加えた 3 名の先生方から、ディベートのエッセンスを教えていただくとともに実践することとしました。

10 日 (火) (1・2・5・6 組) : 矢澤先生 11 日 (水) (3・4・7 組) : 綾部先生

24 日 (火) (1・2・5・6 組) : 矢野先生 25 日 (水) (3・4・7 組) : 矢澤先生

～「全日本ディベート連盟」の HP より抜粋～

ディベートとは「公の場で討論すること」です。

公の場で議論をしているため、どちらも論理的に、わかりやすく自分の主張を伝えようとするようになります。かつ、目的は相手を直接説得して打ち負かすことではありません。裁判であれば、論理と証拠の積み重ねによって自らの立場を証明し、裁判官から自分の目的とする結論を引き出すことですし、大統領選の公開ディベートであれば、聴衆の支持を得ることを目的としてスピーチを行います。

これを、各種教育・訓練効果を得るためのトレーニングとして行うのが、「アカデミックディベート」です。「アカデミックディベート」では裁判のように「肯定側・否定側」に分かれて第三者である「審査員」を説得するために議論をします。日本においても学校教育や企業研修で、論理的思考力、クリティカルシンキング、メディアリテラシー、プレゼンテーション能力などを養う手法として高い評価を得ています。

会場 : 同窓会館 2 F 大会議室

時間 : 3・4 時限 (3・4・5・6 組)、5・6 時限 (1・2・7 組)

持ち物 : 筆記用具、英和辞典、金鶏ファイル

*** 詳細については各クラス SGH 係から連絡があります**